



福井県立大学
Fukui Prefectural University

No.120

2023 秋号



FPU NEWSについて
ご意見・ご要望をお寄せください。
抽選で県大グッズプレゼント!

FPU NEWS

Fukui Prefectural University

特別企画

「水産増養殖」の未来を創る

2023年秋、かつみキャンパス始動!

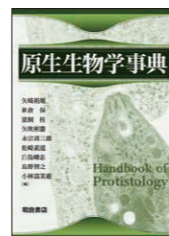
進化する県大! 新学部・新学科が続々誕生

本学関係者の著書紹介

原生物学事典

海洋生物資源学部 近藤竜二 教授、
佐藤晋也 教授、片岡剛文 准教授、
高尾祥文 准教授 分担執筆
(朝倉書店、2023)

分類体系が統一されていない原生生物の様々な研究とそこから得られた新たな知見を紹介し、進化、生態、人との関係など、幅広い知識と最新の情報を包括する事典。卒業研究を始めた学生から研究室主催者、さらに実務応用に関わる関係者や中学高校の教員を対象としたガイドブックになることを目指した。



水産加工とタンパク質の科学

海洋生物資源学部 大泉徹 名誉教授 編・分担執筆、
水田尚志 教授、松川雅仁 教授 分担執筆
(恒星社厚生閣、2023)

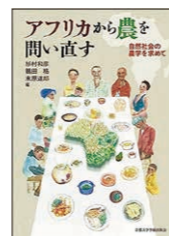
水産物およびその加工品の品質制御と関連した魚肉タンパク質研究の近年の展開を俯瞰し、水産加工の現場における今日の課題を解決するための方向性を解説する1冊。



アフリカから農を問い直す—自然社会の農学を求めて—

学術教養センター 杉村和彦 教授 共著
(京都大学学術出版会、2023)

私たちが暮らす現代産業社会の源流は、古代の食料生産革命から生まれた「アグリアン社会(農業社会)」にある。そこでは環境変動に対して極めて脆弱な単作(モノカルチャー)が卓越する。ここに由来するシステムと思考が、地球規模の環境危機を引き起こしている。そこを乗り越えるために食料生産革命を経験しない「自然社会」としてアフリカに学ぶことで、現代の行き詰まりを解決する術を探る。



県大グッズ続々登場!

県大オリジナルのマグカップ、ボールペン、シャープペンシルを永平寺キャンパス売店で販売開始しました! 県大オリジナル五月ヶ瀬も好評販売中。お土産等にぜひお買い求めください!



県大の学章が入った
シンプルで使いやすいデザイン



県大限定

SNSで県大ニュース配信中心! ぜひフォローをお願いします!



X (旧Twitter)



Facebook



「ふるさと納税版クラウドファンディング」を実施します
ご支援、ご協力をお願いします!

輸入品目を福井産へ! 福井県立大学30周年研究プロジェクト

日本の食料自給率の低さを危惧し、輸入に頼っている食料を県産化するプロジェクトを立ち上げました。様々な食料の県産化に向けた研究開発を進め、「ふくい」で生まれた品種を「ふくい」の技術で生産することで、日本の食料安全保障と福井県の持続的な発展につながることを目指します。

●募集期間/10月末まで(予定) ●寄付目標額/100万円
※ふるさと納税を活用した寄付のため、寄付者の実質負担は2,000円となります。(注:所得収入等により控除額に上限があります。)

●返礼品
(県外の方) 県大開発品種(ふくこむぎ、福井版山田錦など)を使った乾麺や日本酒、特任講師が栽培した果物等
(県内の方) 県大レストランでの県大開発品種を使ったメニューの試食会へご招待

●お問合せ/財務課



寄付金募集
ページはこちら

卒業生の皆様へ

「ビズリーチ・キャンパス」への登録のお願い

「ビズリーチ・キャンパス」は大学生が自校卒業生(OB・OG)の検索から訪問の依頼、実施までを行うことができる大学別のプラットフォームです。OB・OGの登録者数が一定数を越えると学生の利用が可能となりますが、本学ではまだ基準に達していない状況です。学生の業界・企業理解やキャリア意識の形成を目的とし、本サービスの活用開始を目指しております。

後輩のキャリア支援のために登録へのご協力をよろしくお願いいたします!

●お問合せ/キャリアセンター



登録はこちら



新任教員の紹介



生物資源学部 生物資源学科
教授 西原 昌宏 にはらまさひろ
(専門分野)植物分子生物学、代謝工学
(担当科目)分子生物学、生化学

植物の色や形、発生の制御機構の研究を行っています。NGSやゲノム編集等の最新技術を利用して一緒に謎を解き明かしましょう。



地域経済研究所
教授 前田 陽次郎 まえだ ようじろう
(専門分野)経済地理学、農業経済学

酪農を中心とした地域振興や農業の担い手問題について研究してきました。農村部の地域振興を考えていきたいです。

大学HPはこちら



九頭竜川(永平寺町)でアユの伝統漁法「威縄漁」体験(海洋生物資源学フィールド演習)

「水産増養殖」の未来を創る 2023年秋、かつみキャンパス始動!

先端増養殖科学科の新学科棟が2023年10月から供用を開始しました。
福井県立大学の4番目のキャンパスとして誕生したかつみキャンパス内の施設を紹介します!



世界の水産増養殖の 教育・研究拠点へ



小浜湾をモチーフとして、穏やかでありながら賑わいや活気ある施設となるようにデザインされています。建物の部分を斜めにずらして配置する「雁行型」形状をとることで採光や通風、眺望が良くなるよう工夫されています。

かつみキャンパス 開設記念式典を挙行了しました

9月27日(水)、かつみキャンパスの供用開始を記念した記念式典を挙行了しました。岩崎元玄学長によるあいさつの後、杉本達治福井県知事、西本正俊福井県議会議長、松崎晃治小浜市長、白須敏朗本学評価委員会委員長より祝辞を頂きました。

記念式典の後、施設見学会と、水田尚志海洋生物資源学部長、富永修先端増養殖科学科長による新学科の構想説明が行われ、海洋生物資源学部の30年の研究成果や今後世界的に期待される増養殖業に新学科が果たす役割について説明しました。

その後、地域住民の皆さんをお招きした交流会が行われました。嶺南地域の養殖魚等を使った料理が提供され、参加した皆さんは地元の増養殖業の恵みを味わっていました。



新学科の構想説明



地域の皆さんと交流会

研究講義棟

サロンきたまえ

1階のロビーは、学生の学習や憩いの場としてだけでなく、地域の方々との交流の場として利用できるようにしました。古くから日本海側の交流の要であった「北前船」と、多くの人たちに「来てください」という意味もかけて「きたまえ」と名付けました。



講義室 「そとも」・「くすや」

名前はかつみキャンパスがある内外海半島を代表する海「蘇洞門」と山「久須夜岳」に由来します。教室間のパーテーションははずすと、大きな一つの教室として利用できます。



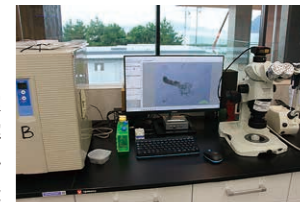
学生実験室

学生実験や実習で使用する実験室です。水産増養殖の基礎を学ぶ実験が行われます。顕微鏡類などの生物実験・化学実験のための機器類が備わっています。



実験室

ゲノム編集、遺伝子組換えの実験を行う機器、遺伝子変異解析、遺伝子やタンパク質レベルの発現解析、細胞レベルの機能解析を行う分析機器を備えた教員・大学院生・卒業研究の学生のための実験室です。



情報処理解析室

ゲノム解析を行う高性能なPC、AI・ディープラーニングに最適なワークステーションを備えた最先端のデータ解析ができる実験室です。



学生オアシス・教員ラボ

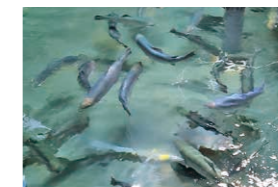
学生と教員のスペースが隣接して配置されており、コミュニケーションが円滑に行えるように工夫されています。



飼育棟



マサバ



ふくいサーモン

新飼育棟は、マサバやサーモン、トラフグ等の養殖魚を育成する大型水槽を備えた飼育実験室、メダカ、ゼブラフィッシュを集約的に飼育管理できるシステム水槽を完備した小型魚類飼育室を設置しています。これらの飼育施設は、遺伝子組換え実験に対応した拡散防止措置を施し、ゲノム編集魚や遺伝子組換え魚の飼育にも対応できます。また、陸上養殖試験が行える閉鎖循環水槽を備えるなど、増養殖に関する最先端の研究や実験が行えるようになっています。

海洋生物資源臨海研究センター



海洋生物資源臨海研究センターは水産海洋研究に欠かせない魚介類の飼育設備と、実験に必要な高度な分析機器を備えた施設で、増養殖研究や環境調査をするための調査船「セリオラII」を所有しています。さらに、5G通信の基地局が設置されており、ICT、IoTを活用したスマート養殖の先端研究が行われています。

水産学術産業拠点「かつみ水産ベース」で 基礎から社会実装まで学ぶ

かつみキャンパスは、同じ区域にある「ふくい水産振興センター」(産)、「福井県水産試験場」(官)と連携して、水産増養殖の学術研究、産業支援、人材育成の拠点「かつみ水産ベース」を形成しています。こうした環境の下で先端増養殖科学科の学生は、徒歩圏内で最先端かつ実践的な水産技術を学ぶことができます。

また、目の前に広がる小浜湾とその周辺の海域では、マサバやサーモン、トラフグなどの海面魚類養殖に加えてワカメ、マガキ、真珠などの無給餌養殖も盛んに行われています。かつみキャンパスで理論と基礎技術を学び、最新の飼育施設で応用実験を行い、養殖生産現場で実証的実習・演習をすることができます。



現場で学ぶ! 水産増養殖

先端増養殖科学科では、増養殖について体系的に学び、学んだことを養殖の現場で実行する実習に力を入れています。先端増養殖科学科ならではの実践的な授業を一部ご紹介します!

海洋生物資源学フィールド演習 水産増養殖が持つ 多面的な役割を体験する



三方五湖でシジミ漁獲体験



未利用魚活用の調理実習

水産増養殖が果たす社会的役割とその潜在力を理解することを目的とした専門導入のための実習です。実習では、水産増養殖と社会のつながりを講話だけでなく、実際に体験します。例えば、小浜湾で若狭高校の「雲龍丸」を用いた海洋観測、三方五湖でのシジミ漁獲体験、九頭竜川でのアユの人工採卵などの体験型の実習を行います。また、ヒラメ陸上養殖施設の見学や「クラゲ水族館」館長と起業に関する懇談会なども実施しました。これらの実習の成果は、前期と後期に各1回、「自分たちが大学でやりたい研究」としてプレゼンテーションしてもらっています。

増殖学実験 実験室で 種苗生産の基礎を学ぶ

魚介類の養殖では人工的に生産した稚魚や幼生を用いて養殖が行われることが多く、飼育下で稚魚や幼生を育成する技術が必要となります。実験の前半では、ふ化直後の稚魚を育成するためには餌料生物(ワムシやアルテミア幼生の動物プランクトン)を安定的に給餌する必要があるため、簡便かつ正確な餌料生物の計数および培養する技術の習得を行います。後半では、カキ養殖のためのマガキの人工種苗生産技術を体験します。次いで、天然採苗の時期には、小浜湾で幼生調査を行い、実際に採取した試料を使って、マガキの生産方法を習得します。



マガキ用付着器を回収



マガキの稚貝を観察

先端増養殖科学科の特長

教育

地域・国内だけでなく
世界で活躍する人材を育成する

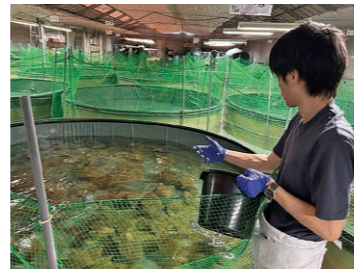
研究

水産増養殖分野の技術と
システムの革新を引き起こす

産業

研究成果を社会実装することが
共通した目的

養殖インターンシップⅠ 水産養殖の実践現場を 実体験して課題を考える



陸上養殖のヒラメに手まき給餌



養殖インターンシップⅠ 報告会

本実習は、養殖生産を中心に水産養殖業に関わる職種を経験し、今後専門科目を履修するための実践的な知識を身に付けることを目的としています。多くの学生は、水産増養殖に対して強い関心を持っていますが、水産業と直接の関わりを持つ機会はほとんどありません。そのため、産業としての水産養殖業の実態を理解できていないのが現状です。本実習を通して、水産養殖業の現場を体験し、理解を深めると同時に課題とその解決策について考える契機になることを目指しています。実習先は県内が中心ですが、他県の大規模養殖場に参加することもできます。

進化する県大! 新学部・新学科が続々誕生

福井県立大学は、第3期中期計画(2019年度~2024年度)に基づき、「福井の持続可能性を支える大学」として福井県の特徴を活かしつつ、若者に魅力があり、地域の課題解決に貢献できる人材を育成できる学部・学科等を続々と開設しています。今後は、「恐竜学部(仮称)」の開設準備をはじめ、「地域リーダーを養成する新学部」の設置検討を進めるなど、県内全域にキャンパスを持つ総合大学として時代のニーズに合わせて進化し続けます!



福井県内全域がキャンパスに!

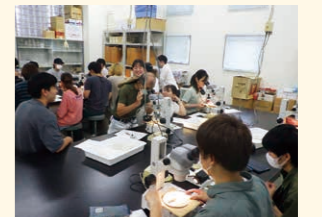
2020年 開設 広く「農」を学ぶ新学科 生物資源学部 創造農学科

食・環境・文化・生活といった「農業」を中心とした社会全般について学ぶ学科です。県内生産者や農産物加工業者ら各方面の専門家を特任講師として招き、現場から幅広い知識と技術を学びます。実践的な学びを通して「農」のゼネラリストを育成します。



2022年 開設 水産増養殖を中心に学ぶ新学科 海洋生物資源学部 先端増養殖科学科

日本海側では唯一の水産海洋系である海洋生物資源学部、日本全国でも初となる「増養殖」に特化した学科として新設されました。水産科学、ゲノム科学、環境科学、情報科学を基盤に、水産増養殖分野の先端技術を実践的に活用する能力を身に付け、リーダーシップをもって活躍できる人材を育成します。



2023年 開設 大学院看護福祉学専攻の博士後期課程 健康生活科学研究科

福井県初の看護系の博士後期課程として今年4月に開設しました。保健・医療を担う看護学と福祉を担う社会福祉学を融合し、健康から生活までの課題に対して領域横断的に「健康生活科学」研究を行い、「ウェルビーイング(健康と幸福)に向けた共生社会」を目指す全国的にも数少ない研究科です。地域の医療・福祉を担う高度な人材を育成します。



2025年 開設予定 恐竜学部(仮称) 開設予定

福井県の豊かな自然を活かし、恐竜を含む古生物や地質学について学ぶ「恐竜学部 恐竜・地質学科(仮称)」を開設予定です。恐竜を含む古生物や地質学の教育・研究を通して、現代社会の諸課題を探究・解決できる人材を育成します。(設置構想につき、名称・内容は変更の可能性があります。)



「勝山キャンパス(仮称)」を福井県立恐竜博物館の隣に設置し、博物館と人的資源・物的資源を共有することで、実践的な教育・研究システムを目指します。また、県内各地での発掘・地質調査を行うフィールド科学を実践するほか、CT撮影装置やVRなど最新のデジタル技術を活用した古生物・地質学の教育・研究を行います。

設置 構想中 次世代の地域リーダーを養成する 新学部 設置構想中

県内各地域をはじめ、国内外で実際の地域課題をテーマとした地域フィールド演習や、県内企業と連携した就労体験型学習などのカリキュラムを導入し、新たな価値を創造し、地域独自のイノベーションをもたらす次世代の担い手を養成する文系新学部の開設を目指しています。



日本学術会議公開シンポジウム

「宇宙や自然を探求しよう～新たな発見をめざす基礎研究の魅力～」を開催しました

8月21日(月)に永平寺キャンパス講堂で日本学術会議公開シンポジウムを開催しました。県内高校(羽水高校、丸岡高校、勝山高校)、県外高校(金沢大学附属高校、金沢泉丘高校)、高志中学校の生徒を含む約350名の方にご来場いただいたほか、富山大学サテライト会場をはじめ、オンラインでも約200名の方にご視聴いただきました。

2015年ノーベル物理学賞受賞者であり、日本学術会議会長の梶田隆章・東京大学宇宙線研究所教授による基調講演「神岡の地下から探る宇宙の謎」が行われ、ニュートリノや重力波を使った宇宙の観測や研究について紹介されました。梶田教授は中高生らに「このような研究にぜひ参加してほしい」とのメッセージを送りました。

続いて国立研究開発法人国立環境研究所地球システム領域の三枝信子領域長、東京大学大気海洋研究所附属国際・地域連携研究センターの原田尚美教授、本学恐竜学研究所の河部壮一郎准教授による地球温暖化や南極観測、恐竜に関する最先端の研究についての講演が行われました。

講演後の総合討論では、中高生から「ニュートリノは光より早いのか」「恐竜の鳴き声はわかっているのか」などの質問があり、講演者からは「いい質問ですね」「非常に重要な視点です」などのやりとりがありました。



梶田隆章教授の基調講演



講演者と中高生との総合討論



日本学術会議公開シンポジウム
(本学公式YouTubeにリンクします)



オープンキャンパス2023を開催しました
—ようこそ未来の県大生!—



恐竜学部(仮称)の化石観察体験



スムージーを販売する起業した学生

8月5日(土)から7日(月)にかけて、高校生や保護者を対象としたオープンキャンパスを開催し、県内外からおよそ2,000名の方が参加しました。

各キャンパスでは各学部学科が模擬授業や研究体験などさまざまなプログラムを用意し、教員や在籍生が県大の魅力を伝えました。令和7年度に設置予定の恐竜学部(仮称)は、新学部の説明のほか、実習形式でのワークショップを実施し、参加者に化石の観察やVR体験をしてもらいました。

また、学生が学内を案内するキャンパスツアーを実施したほか、起業した学生や有志の学生があわら産のすいかで作ったスムージーやクリームソーダを販売しながら参加した皆さんと交流しました。

ブラジル福井村・福井県人会訪問



8月6日(日)、ブラジルのサンパウロ州で福井県出身者が開拓した「コロナ・ピニャール(通称:福井村)」の開村60周年記念式典が開催され、学術教養センター石丸香苗教授が福井県教育長、福井県議会議長らとともに参加しました。またそれに先立ち、5日(土)には福井県文化協会(福井県人会)で歓迎会が行われました

石丸教授は、ブラジルの森林資源利用に関する研究をしており、ブラジル研究をする県大の教員として福井村や県人会とも交流をしています。

越前市と持続可能な農林業の
推進に向けた連携協定を締結しました



越前市と福井県立大学の連携協定締結式

7月3日(月)、生物資源学部は越前市と「持続可能な農林業の推進に係る連携協定」を締結しました。本協定により、本学生物資源学部での研究成果や知見を活かして、越前市内での有機農業の普及や農業分野における温室効果ガス削減、スマート農業など次世代農業の推進を図るとともに、農業の持続可能性を高める研究を進めていきます。

県内企業の付加価値の創造と地域活性化、
ふくい企業価値共創ラボ始動!



県内企業との連携会議

福井県立大学は、福井県、Fプロジェクト(福井銀行、福邦銀行)、協同組合全国企業振興センター(アイコック)と共同で、「ふくい企業価値共創ラボ」を実施します。本事業は、大都市圏で活躍する中核人材が半年間福井県に移り住み、県大の協力研究員としてリカレント教育を受けながら、県内企業の経営課題の解決に取り組めます。9月8日(金)に、本事業に参加する協力研究員5名と研究員を受け入れる参画企業や関係団体が参加し、開講式が開催されました。

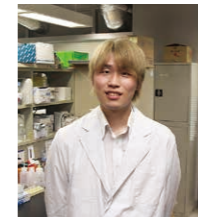
「数理・データサイエンス・AI教育プログラム
(リテラシーレベル)」に認定されました



本学の教育プログラムが、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」に認定されました。今後も、学生が数理・データサイエンス・AIの基礎的素養を身に付け、多様な専門分野に活用できるよう、教育内容の充実に努めます。

『福井県立大学つぐみ賞』受賞者紹介

生物資源学専攻 生物資源学専攻 博士前期課程2年
前川 栄治さん



生物資源学部伊藤崇志教授らの研究グループが菓の有成分ベツリン酸に皮膚細胞の老化を抑制する効果を発見し、国際的な食品化学の専門学術誌「Journal of Agricultural and Food Chemistry」へ論文掲載するにあたり、筆頭著者のひとりとして貢献しました!

経済学部 経営学科4年
五十嵐 愛海さん



坂井市が開催した「坂井市結婚応援日本一! アイデアコンテスト」で優秀賞を受賞! えちぜん鉄道を活用した「えちてつコン」は、坂井市の観光やグルメを盛り込み地域活性化に貢献する内容が高く評価され、事業化第一弾として9月24日(日)に開催されました。

経済学部 経済学科3年
竹内 大地さん



2023年度 カヌーポロ U-21 カテゴリー日本代表選手に選出されました! 11月にシンガポールで開催されるアジア選手権大会に派遣されます。



生物資源学専攻 博士前期課程2年
江岸 祐夏さん
芝 日菜子さん

生物資源学部 生物資源学科4年
馬場 美幸さん
藤原 七海さん

永平寺キャンパス内の実験圃場の緑肥として栽培したひまわりの畑を一般公開するための準備、開催に生物資源学部塩野克宏教授らと共にボランティアで取り組みました。その結果、県内外から616名の来場者が訪れ、県大の認知度向上に貢献しました!



7月27日(木)・28日(金)に行われたひまわり畑の一般公開でひまわり迷路を探検する御陵幼児園(永平寺町)の園児たち

おめでとうございます!



Tsugumi

同窓生の近況

同窓生の皆さまから寄せられた近況をご紹介します!

橋本 理奈さん
OOKABE GLASS株式会社
専務取締役
(経済学部経営学科 2008年度卒業)



ガラス・鏡を中心とした建材のインターネット販売と、中小企業へのブランディング・マーケティング支援を行っている企業に勤めております。現在は、若者がもっとチャレンジできるような仕組みづくりなど、福井をよくするための新規事業の企画・立ち上げに携わっております。

県大では福井に特化した経済について学ぶことができ、現在の仕事に活かされています。また学業以外では、海外を含め様々な場所を訪れ、多種多様な方と接点を持つことで、新たな視点を得るきっかけが何度もありました。ぜひ大学時代に多くの経験を積み、将来の可能性を広げていただきたいです。大学の4年間でしかできない経験をたくさん積むことが、社会人になったときの大きな財産となるはずです!

佐々木 栄和さん
フォースライフサイエンス合同会社
代表
(生物資源学部生物資源学科 1995年度卒業)



大学の研究から生まれた新規技術をグローバルで社会実装するためのプロジェクト支援・創業前の準備支援を行っております。これまで10件以上の新規事業に関わり、スタートアップ2社で取締役、2023年にモデルナとのM&Aを成功させました。顧客のペイン(満たされないニーズ)を理解すること、そして製品・サービスへ昇華させることができれば、技術の新規性に関わらず、社会に必要なビジネスモデルが構築できます。

一期生だったこともあり、生徒会や部活、学祭なども全てゼロベース。メンバーで集まって骨格を作っていく、承認を得て、実践していきました。研究室での経験も含めて、分子生物学の基礎を学べたことは今でも大きな財産となっています。Work Hard Play Hard! (よく学び、よく遊べ!)